

CAGLIERO¹¹

カリエロ11

サレジオ会宣教ニュース N.49 - 2013年1月

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



サ

レジオの宣教師の皆さん、サレジオ・ミッションの友人の皆さん!

2013年1月の初めに、光に満ちた年をお祈り申し上げます!

私たちは信仰年、恵みの年を生きています。ドン・ボスコのまことの子らとして、私たちはいつも、深い教会の感覚をもって生きたいと願っています。2013年サレジオ宣教の日のテーマ、「**アフリカの信仰の旅**」は、信仰年の私たちの歩みを助けてくれます: 求道者の話、参考となるカテキスタの姿は、若いキリスト者共同体から学ぶよう私たちを助けてくれるでしょう。

「信仰と希望の危機にあると思われる人類のため、霊的な“肺”」(ベネディクト十六世 Africae Munus 13)の豊かなダイナミズムを紹介くれたアフリカのすべてのサレジオ会員に、心から感謝します。

この信仰年のあいだ、2013年サレジオ宣教の日の祈りを唱えることをお勧めします。「イエス、私と共に歩んでください、イエス、私と共にいてください……私はあなたの証人なのです!」

Vedran Clement

宣教師顧問
ヴァツラフ・クレメンテ神父

アフリカとマダガスカル“カイロス”の時

アフリカを訪れる誰もが強い印象を受けるのは、この大陸に暮らす中国人の多さです。ある推計では、アフリカには少なくとも2500万人の中国人がいるそうです!

中国人の中には、特に若者は、主にスポーツのため、時には私たちの典礼を“楽しみに”、私たちのセンターを訪れる人もいます。これらのエピソードは、時に私たちの冗談の種になることもあるでしょう。しかし、この状況を宣教の意識をもってより深く見るなら、彼らのほとんどではないにしても、その多くが、福音も、イエス・キリストのことも聞いたことがないということが明らかになります。

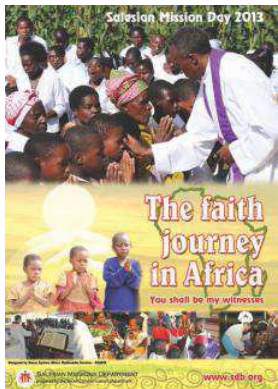
2012年11月5-9日にエチオピアのアジスアベバで、アフリカとマダガスカルにおけるキリストの第一次福音宣教というテーマで研修会が行われ、今年のサレジオ宣教の日がアフリカでキリストを告げることに焦点を当てているのは、幸いな偶然かもしれません。この二つの出来事は、ドン・ボスコの宣教の心をもって周りを見るように私たちを促します!

ドン・ボスコの宣教の目をもって周りを眺めるとき、「まだ福音化されていないアフリカの数多くの人々に良い知らせを告げる緊急性」(『アフリカにおける教会』47)が見えてきます。したがって、イエス・キリストを知らない人々のうちに関心を目覚めさせること、また、信仰が生めなくなったアフリカのキリスト者の信仰を再活性化させることが大切です。

そして、教皇ベネディクト十六世は、「アフリカ大陸の福音化の初めの熱意を取り戻す」(Africae Munus, 164)ようにと私たちに呼びかけました。そのような熱意は、アフリカに滞在する中国人への宣教の可能性に、私たちの目を開かせます。実に、**中国の教会が持たない福音を告げるあらゆる可能性が、ここにはあるのです!** 新約聖書は、「神の目的のために定められた時」を言い表すために“カイロス”という言葉を用います。神が働かれる時です(例えばマルコ1・15)。神の訪れの時に、私たちは応えなければならないと私は確信しています。最近の会合で、アフリカ地域の管区長たちに、これほど多くの中国人の存在を前にする今、神が私たちに語られていることを識別しようと呼びかけたのは、この理由からでした。教会とアフリカ-マダガスカルのサレジオ会の“カイロス”の時に、私たちが大胆な宣教をもって応えるとき、豊かな収穫が待っていると私は信頼しています!

アフリカ-マダガスカル地域顧問
ギジェルモ・バサニェス神父 SDB

2013年 サレジオ宣教の日



サレジオ宣教の日は、サレジオ会員、教育司牧共同体、全サレジオ家族が、会としてのさまざまな宣教の取り組みを意識し、新たな宣教の現実を目を開き、自分の世界に閉じこもる誘惑を乗り越え、サレジオのカリスマが全世界に広がるものであることを思い起こすため、毎年、それぞれの管区で決めた日に祝われます。今年のテーマは「**アフリカの信仰の旅**」です。サレジオ宣教の日は、一年を通して教育司牧共同体の中で生き生きと保たれる宣教の精神の頂点、その表現です。



http://www.sdb.org/en/SDB_webTV/Sectors/SMD_2013
http://www.sdb.org/it/SDB_webTV/Congregazione&IDVideo=495&page=1



アフリカで、アフリカ人、宣教師として!

私はコンゴ民主共和国出身で、カトリックの家庭に生まれました。母に連れられて、私はイエスと出会いました……ある日、ある教会の前を通りかかったとき母が私に言いました。「アルベール、教会のイエス様にごあいさつに行きましょう……」。私は母が何を言っているのかわかりませんでした。しかし教会に入ると、母はひざまずき、十字を切りました。私は母の仕草に深い感銘を受け、その時から自分の人生に神の現存を感じるようになりました。

1990年から1992年にかけて、私の国は大変な時期でした。大勢の子どもたちが路頭に迷いました。街中でこの子どもたちを見ると、私の心に疑問が湧きました。「なぜこの子どもたちはこのように苦しまなければならないんだろう? イエスはこの子どもたちを見捨てられたの?」私の心の奥底から、この問いに答えるイエスのことばが響きました。「これらの私の兄弟、しかも最も小さな者の一人にしたことは、私にしたのである」(マタイ25・40)。私は、世界の苦しむ子どもたちに仕えるために生涯を捧げようと決心しました。私の宣教師の召命が生まれたのは、この時でした。

サレジオ会の修練準備期生として、困難のうちにある子どもたちのところで働くために管区長に派遣され、とてもうれしかったです。自分の心に感じる宣教への呼びかけを、院長に打ち明けました。院長は、修練院へ行ったらその望みを表明するようにと助言してくれました。修練期のあいだ、修練長はこの召命に関して私を励まし、識別を続けるよう助言してくれました。哲学課程のとき、総長ドン・ベッキに手紙を書き、ドン・ベッキは私の願いを聞き入れ、7か国から成るフランス語圏西アフリカ管区に私を派遣しました。実地課程では2年間トーゴで働きました。司祭叙階の後、コートジボアールのアビジャンで、子どもたちの養護施設と青少年司牧の責任者になりました。2010年から、ブルキナファソのクアガドゥーグーで、新たなサレジオの拠点が開設されようとしているベルヴィルの子どものために働いています。



宣教師としての歩みを通じて、イエスを告げ知らせる喜びの一部分である、たくさんの困難に出会いました。言葉や気候に慣れるのは大変でした。しかし、私の最大の喜びは、アフリカで、宣教師として働くアフリカ人を喜んでくれる西アフリカの兄弟姉妹に出会えたことです。何人かが同じような言葉で言ってくれたことは、私の心に深く刻まれました。「あなたはアフリカ人で、自分の国、親、友だちを後にして、私たちと一緒に暮らすために来てくれた。そうすることで、あなたは私たちの兄弟、息子になった。恐れなくて、私たちの中で神があなたにゆだねたこの使命のために、私たちはあなたと共にいるよ。」

神からの宣教師の道への呼びかけに、恐れずに応えるようにと、私は若いサレジオ会員たちに勧めたいです。この世界のどこでも、たとえ地の果てでも、ご自分の証人となるように遣わされようとする場所で、神はあなたを必要とされています。どこにいても、宣教の使命を生きてください。すべての宣教師へ: 宣教の使命を生きるよう若者をひきつける、福音の1ページになりましょう!

コンゴ出身、ブルキナファソの宣教師
アルベール・カブゲ神父

オセアニアに新たな宣教師を求む

- 管区 > AUL - オーストラリア
- 言語 > 英語、移民の人々の言語
- 備考 > 多文化、世俗化した社会。若い会員が少ない。教育事業(学校、ユースセンター)、移民の司牧



サレジオ会の宣教の意向

中東管区のため

7か国に暮らす中東管区の会員と信徒・協働者のために、多くの困難の中で、信仰、勇気、忍耐をもって、教育と福音宣教というサレジオ会の使命を果たしつづけることができますように。

中東管区は、聖地のアントニオ・ベッローニ神父を通して設立され(1893年)、後にエジプト(1896)、トルコ(1903)、イラン(1937)、シリア(1948)、レバノン(1952)も管轄に入りました。2012年1月、中東管区に初めてのアラブ人管区長、シリア出身のムニール・エル＝ライ神父が就任しました。現在、地元出身の33人の会員: エジプト15人、シリア13人、レバノン3人、イラン、イラク各1人と、次の国々からの75人の会員がいます: イタリア42人、インド7人、ポーランド6人、ベトナム3人、スペイン2人、マルタ2人、チリ1人、ハイチ1人、フィリピン1人、ケニヤ1人、メキシコ1人、パラグアイ1人、スロベニア1人、東チモール1人、ベネズエラ1人、アメリカ合衆国1人。宣教師の多くは高齢です。言葉、文化、宗教の多様性、キリスト教のさまざまな典礼、社会的出自や身分に起因する難しさ、さまざまな武力紛争のため、教育と福音宣教の使命を果たすのは容易ではありません。

